

当院では診療看護師（NP） が活躍しています！

2024年から「勤務医の時間外労働時間を原則として年間960時間までとする」といった「医師の働き方改革」の施行が掲げられています。しかし、その一方で高齢化・多死社会・医師不足・医師の業務負担増大などの様々な課題が生じているのも事実。さらに新型コロナウイルス感染症再燃に対する医療体制の充実も求められており、働き方改革が実現される前段階でさらなる議論が必要とされています。

そんな中、注目されているのが診療看護師（nurse practitioner：NP）です。日本では2008年に大分県立看護科学大学大学院で初のNP養成が開始されました。現在では全国に672名のNPが各施設で活動しています。

《診療看護師：NPとは》

看護職でありながら、より医師サイドにたった診療を一定の制限で行える国が認めた新たな制度上の看護師であり、医学を学ぶことで医師と共通言語を持って診療にあたることができる資格となります。看護師が看護学を軸に大学院にて2年間医学を学び、これまで医師にしか実施することが出来なかった診療行為の一部を担うことができます。さらに医師と看護師、双方の視点を併せ持ち、より広い観点から患者様のニーズを捉えサポートできることを強みとしています。

《新たなチーム医療に向けての取り組み》

当院では診療看護師育成に関する実習施設となっております。将来、診療看護師を目指す学生達が医師監視のもと医学的知識と技術を習得し、医療サービスの質向上に貢献します。患者様・ご家族様におかれましては、チーム医療における新たな取り組みにご理解・ご協力頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

2022年 6月 千葉メディカルセンター

◆ 診療看護師の特定行為38項目

特定行為は、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる、厚生労働省が定義する次の38行為を指します。

	特定行為		特定行為
1	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	21	創部ドレーンの抜去
2	侵襲的陽圧換気の設定の変更	22	直接動脈穿刺法による採血
3	非侵襲的陽圧換気の設定の変更	23	橈骨動脈ラインの確保
4	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	24	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
5	人工呼吸器からの離脱	25	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
6	気管カニューレの交換	26	脱水症状に対する輸液による補正
7	一時的ペースメーカーの操作及び管理	27	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
8	一時的ペースメーカーリードの抜去	28	インスリンの投与量の調整
9	経皮的心肺補助装置の操作及び管理	29	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
10	大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	30	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
11	心嚢ドレーンの抜去	31	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
12	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更	32	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
13	胸腔ドレーンの抜去	33	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
14	腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。）	34	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
15	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	35	抗けいれん剤の臨時的投与
16	膀胱ろうカテーテルの交換	36	抗精神病薬の臨時的投与
17	中心静脈カテーテルの抜去	37	抗不安薬の臨時的投与
18	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	38	抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整
19	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去		
20	創傷に対する陰圧閉鎖療法		

医師と看護の視点。

この2つを併せ持つ診療看護師だからこそできる治療・看護があります。

